



町長日誌 No.133

町長日誌の第133号です。町長が日頃町民の皆さんと話し合ったことや色々な出来事を町長自ら書いたものです。町民皆さんのご意見・ご要望・ご感想をお待ちしています。

11月15日(土)

13日(木)夜に今年初めて雪が積もり郊外には初めての除雪車が出動しました。昨日にかけても吹雪模様の天候が続ぎ、小さな吹き溜まりがあちらこちらに出来ています。今年は、秋に入ってから西風の吹く日が多く、最近には特に強い風の吹く日が多いように思います。しかし、風が強いのは天候ばかりではなく、国会の方もにわか解散風が吹き始め、総理が外遊中に解散日程や投票日、さらには12月25日には臨時国会召集等の話が実しやかに報道されています。12～13日に旭川一紋別間高規格道路建設促進のための要望活動で上京したのですが、“99%解散間違いなし”のようで、国土交通省の皆さんは「これで予算の組み直しをしなければならない。正月返上だ！」とため息交じりの話が聞かれました。株価がどうの？ 円安がどうの？ 経済指標がどうの？ という話が報道や政治家から毎日のように聞こえてきますが、私たちが日常の生活で不安に思うことは将来に夢が、生活に安心感が持てない事ではないでしょうか。

石破大臣があちこちで講演している「地方創生」は、疲弊した過疎地域の再生ためと言っていますが、若い世代が激減し高速道路網から外れ、これといった産業の無い地域が、起死回生の方策とその為の人材を確保することは簡単な事ではありません。むしろ気になるのは地方創生財源確保のために地方自治体の重要財源である交付税交付金が大幅に削減される可能性が大きいことですが、どさくさで、この法案が可決されれば解散という政局シナリオのようです。

10月29日(水)

道内町村の来年度の政策課題を検討する会議が行われ、私は水産業の機械化への支援事業費拡大を提案したのですが、日本海側の町村からは深刻な不漁の状況と漁業者の高齢化の実情が首長から次々に訴えられました。道庁水産部もこの為の対策事業を国の支援を受けて取り組み始めたところですが、組合員一人当たりの生産額はオホーツク海側で4,679万円なのに対して日本海側では928万円と5分の1の生産額です。この要因には海水温の上昇、海の栄養不足もありますが、オホーツク海側に比べ栽培漁業への取り組みが半分以下と言うことも大きな要因の一つです。オホーツク海沿岸の漁業者がサケ・マスのふ化事業とホタテの養殖に長年努力してきた事が今大きな成果となっています。

11月11日(火)

日本銀行札幌支店の支店長が来庁されました。連絡があった時は「日銀がどんなお話だろう？」と思いましたが、「興部町は小さいながらも非常に頑張っている町と聞いているので、これからの町づくり地域づくりについての意見を聞きたい」それから「金融機関が応援できることは無いでしょうか？」ということでの来訪でした。支店長さんは大変に気さくな方で、しかも地域の一次産業などの状況も大変よく理解されており1時間以上も懇談しました。私からは、「旧拓殖銀行の様な2次3次産業を育てる資金供給のシステムが必要」と提案しました。オホーツクは、今は農業・水産共に好調ですが、産業の空洞化は進む一方です。本州や海外に依存している加工産業の育成に長期的視野で力を入れる必要があり、そのための技術者の養成や市場・流通の開拓のためには多額の資金が必要なので、その為には金融機関の応援が必要と言うことを申し上げたのです。

今年も残すところあと1ヶ月となりました。今はまだ確定してはいませんが解散となれば、12月14日か21日には投票となります。私たちは今、マスコミの影響を強く受け過ぎるためか、自分で考えることを疎かにする傾向が強いと思われます。自分の意志で1票を投じる事は大切な事で、その積み重ねが目には見えませんが大きな民意になる、それが民主主義と私は思っています。暮の忙しい時ではありますが、時間を遣り繰りされ投票して頂ければ幸いです。

また、風邪が流行っているようですからお気を付け下さい。では、また。

お便りをいただく場合は、適当な便箋等を封筒など(使い古しのもので構いません)に入れ、封をして、町役場窓口か、お知り合いの町職員にお渡し願います。町長のみ開封とし、お返事をさせていただきます。不明な点は、総務課総務厚生係まで。TEL 82・2131です。